

第 58 回長野県老人クラブ大会あいさつ

本日は、西駒 初冠雪の下、皆様をお迎えすることができました。どこまでも澄みきった絶好の青い空であります。この駒ヶ根市において、県下各地から 大勢の皆さんのご参加をいただき 「第 58 回 長野県老人クラブ大会」が開催できましたことに対し、まずもって感謝を申し上げます。

また、ご来賓の皆様には、大変お忙しい中、ご臨席をいただきありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。

さて、長野県人口の約 3 割が 高齢者となり、人生 90 年時代を迎えた今日、高齢者が健康で仲間と支え合いながら地域づくりを進めていくことが求められており、こうした活動を半世紀以上にわたり推進してきたのが、私たち老人クラブの存在であります。

ご案内のとおり、長野県老人クラブ連合会は、全国に先駆け、昭和 35 年に設立されて以来、高齢者の生きがいと健康づくり、住みよい地域づくりを実現するため、「健康、友愛、奉仕」の全国三大運動をはじめ幅広い地域活動に取り組んでまいりました。

長年にわたり先人たちが築いてきた活動は、各地域で多大な成果を上げ、地域に根付いた活動として今日まで受け継がれてきております。

今後、老人クラブに対する期待は、ますます大きくなってきておりますが、私は、こうした高齢者や地域の期待に十分応えていくためには、現在老人クラブが抱えている大きな課題を、まず、解決をしていかなければならないと思っています。

その大きな課題とは、私たちの仲間である会員数の減少であります。

会員数の減少は長野県だけではなく全国老人クラブの共通の課題であり、全国老人クラブ連合会では、会員数を増加するため、平成 26 年度から「全国 100 万人会員増強運動」を実施し、長野県では 5 年間で 2 万人会員を増員するよう、今、進めています。

新たな仲間呼び掛け、生きがいづくり、健康づくり、仲間づくり、地域づくりを県下の各連合会で実施しております。それには、老人クラブが、地域のニーズに的確に対応できる組織でなければならず、半世紀以上にわたり先人たちが築いてきた、もろもろの活動を更に前進させたいものであります。

私たち一人ひとりが、老人クラブ活動に自信と誇りを持ち、仲間づくりの輪を広げ、高齢者や地域の期待に応えていきたいものと思います。

本日は、長年にわたり老人クラブの育成・発展にご協力、ご尽力いただきました皆様の表彰を申し上げ、「私の主張」は、駒ヶ根市の山田秀明さんから「実りある会員加入促進への取組」と題して発表いただきます。そして、独立行政法人国際協力機構 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所専門嘱託の佐藤利春さんから、「シニア海外ボランティア～セイロンティとカレーの国で～」と題してご講演をいただきます。

どうぞ有意義な日にしていただきたいと思います。

終わりに、本日受賞されました皆様方に対し、心からお祝いを申し上げます、今後の更なる活躍を祈念すると共に、本大会の開催地として、受入れ等の準備にご協力いただきました駒ヶ根市高齢者クラブ連合会と関係の皆様方に厚く感謝申し上げます、あいさつといたします。

平成 29 年 10 月 26 日

一般財団法人長野県老人クラブ連合会 会長 池上 弘祥